

令和7年3月26日
世田谷区立桜木中学校
校長 石井 達也

令和6年度の方策について実行した改善結果

令和5年度学校関係者評価委員会報告書による提言を受けて、令和6年度に実行した改善方策の結果を報告する。

1 重点目標について

- (1) 指導方法の工夫・改善を校内研修会で継続して実施した。東京教師道場経験者である校内研修担当教諭を中心に、令和の時代に求められる授業について共通理解して進めてきた。生徒が「主体的に課題解決」する場面が増え、学習指導に対する肯定的回答が84～99%の高評価につながったと考えられる。
- (2) 重点目標の周知に努めてきたが、前年比7%増とはなったものの58%にとどまった。

2 学習について

- (1) 校内研修を中心としての日々の授業改善によって、生徒が意欲的に学習に取り組めるような場面を授業内で設定した。自他の考えを伝え合う活動が多く行われるようになった。生徒への設問「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」で97%肯定的評価につながった。
- (2) 管理職による授業観察を年間を通して継続的に実施し、振り返りによる指導方法の意見交換の場を数多く実施した。また、特別な支援を要する生徒に対する方策を特別支援教室担当教員が講師となり具体的に提案したことで、学校としての共通理解で実践するとともに、学生ボランティアの活用で定着してきた。

3 教職員について

- (1) 相談しやすい環境づくりの1つとして、PTA主催の懇親会を夏季休業中に参加した。また、全教職員が保護者と協力して生徒を育てることを意識して教育活動を進めてきた結果、「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」という設問で前年比+9%となった。
- (2) 生徒一人一人と丁寧に話すこと、聞くことを基本に日々生徒理解に努めてきた。傾聴し、継続して支援することで、相談できる相手として教職員が選択肢に入ったと考えられる。その結果前年比+12%となった。

4 学校図書館の利用について

(1) 前年比+11%となったものの、肯定的評価は48%であった。図書館司書が丁寧に図書室環境を整えている。1・2学年の国語科で生徒が自分のお気に入りの本を紹介する授業を実施したが、アンケート実施前であった。

5 コロナ禍後に置ける学校運営について

(1) 新型コロナウイルス感染症が感染症法において第5類に分類され、制限がない状況で1年間の教育活動を実施してきた。iPadを利用した授業展開は日常になり、班活動、学級活動において机を向かい合わせて対話する光景が戻ってきた。全校朝会・生徒朝会では全校生徒が体育館に集まり、時と空間を共に共有することができた。ただし、12月中旬からインフルエンザの流行により、2学年2学級・1学年1学級を学級閉鎖することになった。そのため、2学期終業式・3学期始業式は各教室にリモート配信で実施し、感染拡大防止を行った。